

復興期カンボジアの障がい者に対する国際援助政策の研究

津田 理沙

2021 年入学

派遣先国：カンボジア王国

渡航期間：2022 年 7 月 2 日から 2022 年 8 月 5 日

キーワード：身体障害、地雷被害者、国際援助、NGO、義肢義足

対象とする問題の概要

今日のカンボジアの障害者福祉は、1980 年代の人道支援を源流とし、1991 年のパリ協定を皮切りとした国際援助とともに形成されてきた。カンボジア政府は、2014 年からと 2019 年からの 4 年間、障害者戦略計画を掲げ、障害者の貧困削減や差別の禁止を目指している。しかしながら、現在も障害者福祉は、外国の NGO や外国から支援を受けた現地 NGO などが一翼を担っており、例えば 1994 年に社会福祉・退役軍人・青年更生省（以下、MoSVY）と国際 NGO が共同で設立した理学療法センターは、現在もその資金源の半分以上を国際 NGO 側が占める。このように、国際援助は、現在に至るまで紛争後の障害者福祉を担ってきた一方で、支援の対象は国際的なトレンド（関心）を反映し、他の課題を軽視させる可能性が指摘されている。例えば、地雷問題への関心によって、障害者への支援が地雷・不発弾の被害者としての身体障害者に集中し、それ以外の原因による障害者に対する支援が立ち遅れた[吉崎ほか 2006]。

研究目的

本研究は、①現在のカンボジアにおける障害者に対する支援の実態と、②復興期以後の障害者への援助が「いつ/誰を対象に/どのような活動を通じて」なされたのかという動態と国際支援の関係を明らかにすることを目的とする。

そのために、今回の渡航では、カンボジアで障害に関連した活動を行う NGO や当事者団体から資料収集および聞き取りを実施した。市民団体に着目する理由は、障害者福祉において NGO の役割が大きいことに加え、NGO の分析により、国際的なトレンドと障害者福祉の実態との相互関係を分析できると考えたためである。

フィールドワークから得られた知見について

現地調査中、障害分野で活動する団体 10 件を訪問し、活動の見学と聞き取り調査を行った。内訳は、NGO と MoSVY が共同で運営する国立理学療法センター1 件、現地 NGO 7 件、外国の NGO 2 件である。調査日のうち 1 日は、現地 NGO の 1 つが実施する障害についての啓発ワークショップに参加した。また、国内で活動する団体の概要を把握するため、カンボジア開発研究機関（CDRI）の資料室にて、障害者支援に関する資料を収集した。

今回の聞き取りで、次の知見を得られた。第一に、国内で多様な活動を展開する各 NGO は、障害という大きな括りの中で密接に連携を取っている。例えば、身体障害者の支援において、ある NGO が車椅子を支援することになった際、車椅子を製造している他の NGO に発注をするなどである。他にも、義肢製作技師を養成する NGO では、卒業生を、義肢義足を提供する政府と NGO 共同運営の理学療法センターに派遣・就職斡旋をするという連携がシステム化されていた。知的障害児の教育支援においても、複数の NGO 間でノウハウの共有がなされている。

第二に、確かに地雷被害者への支援は、内戦と地雷というショッキングな問題に呼応する形で寄せられた国際的関心が影響したが、現在の NGO の活動を観察すると、国際的な枠組みの方が強く影響していると言える。例えば、女性障害者に対する暴力の撲滅とエンパワメントは、近年の障害分野で最も注目されるトピックである[Astbury and Walji 2013]。実際に、この課題に取り

組む NGO にもドナーがついていたが、これは「カンボジアの女性障害者が抱える問題」について市井の関心が寄せられたためではなく、女性障害者が開発分野において重要視され、取り組みの枠組みが決定されたためである。ただし、市井の関心もなく国際的な枠組みでも強調されない課題に関しては、ドナーが離れ、資金調達に課題を抱えている団体も複数あった。援助が国際的なトレンドに影響され行われてきたことの弊害は否めない。

聞き取り調査を行った障病に関わるNGO、機関一覧

団体名	組織形態	活動内容	備考
Cambodian Handicraft Association(CHAI)	カンボジアのNGO	身体障病を持つ女性の職業訓練と工芸品販売	
Hope for Deaf and Handicap Organization(HDHO)	カンボジアのNGO	聾啞者への職業訓練とクメール語手話教育、身寄りがなく障病を持つ人へのシェルター提供	
Battambang Regional Physical Rehabilitation Centre(PRC)	政府とNGO共同運営の国立理学療法センター	診察・補助器具の提供・リハビリテーション(無料)	担当エリアはボーサット、バットアンバン、バイリン、バンテアイ・ミエンチェイ、ウドーミエンチェイ
The exceed	カンボジアのNGO	義肢義足製作技師養成(カンボジア、ミャンマー)、義肢義足製作、利用者フォロー	旧名Cambodia Trust、海外からの留学生を多く受け入れる
Brave hearts Program	カンボジアのNGO	特別なニーズ(HIV陽性や身体障病・学習障病)を有する孤児の養育	
Wheelchair Factory	カンボジアのNGO	車いすの受注製作・販売	国内で調達できる材料のみで車椅子を製造している。そのような工房は、国内に3件しかない。
Phnom Penh Center for Independent Living	カンボジアのNGO	自立生活の促進、政府への政策提言、地域住民へのバリアフリー啓発	
Hearts of Gold	外国のNGO(日本)	教育機関の体育教育促進、障病者スポーツ促進など	
Cambodian Disabled People's Organization	カンボジアのNGO	加盟団体との連絡調整、政府への政策提言、地域住民への障病者の権利啓発	カンボジアの障病当事者団体・NGOの統括NGO
Aid And Relief Japan	外国のNGO(日本)	知的障病児のインクルーシブ教育	

反省と今後の展開

今回の調査では、障病分野で活動するアクターと繋がりを作ることができた。特に、NGO・当事者団体の統括機関 Cambodian Disabled People's Organization (以下、CDPO) のスタッフと複数回接触し、活動の参与観察も行ったことは、ここに加盟する 75 団体と繋がる際にも活かせるであろう。他方で、約 5 週間の渡航中、調査目的を広く設定しすぎたため、目的に対し具体的な知見を示すことができなかった。特に、国際的なトレンドに左右される国際支援が障病者福祉に与える影響については、「国際的なトレンド」を「世間一般の関心」と「地域や国家が重視する分野」などに細分化して考える必要がある。また、聞き取り調査は、件数を優先したため CDPO 以外には一度しか訪問・聞き取りしていない。しかし、関係性がない中、調査者が直接的な質問をするだけでは回答を得られないことがあったため、次回の調査では活動現場の参与観察を含めて複数回訪問することで、より詳細な分析を行う必要がある。

参考文献

- 吉崎基弥. 青山温子. 永井真理. 小林明子. 2006. 「カンボジアにおける身体障病者支援の現状と課題」『Journal of International Health』21(1):43-51.
- Astbury, J. & Walji, F., 2013. “Triple Jeopardy: Gender-based violence and human rights violations experienced by women with disabilities in Cambodia.” AusAID Research Working Paper 1, 2013.



写真1：国立リハビリテーションセンターで、無料で診察・提供される義肢装具。義肢装具製作技師養成学校が併設されている。



写真2：Cambodian Disabled People's Organizationのスタッフの皆さんと調査者